

2014 年 6 月 19 日

グローバルレポート

フィリピン 未開拓市場、大きな魅力

コンサルティング・国際事業本部 国際本部 グローバルコンサルティング部 シニアコンサルタント 半田 博愛

足下でフィリピン経済が急速に成長している。アキノ政権下の政治の安定を背景にサービス業などが経済成長をけん引、2013年の実質国内総生産(GDP)成長率は7%超と、東南アジア諸国連合(ASEAN)域内でミャンマーに並ぶ高成長を遂げるまでになった。

約1億人の人口や人口増加率の相対的高さに加え、1人あたりGDPがサービス業の裾野が普及する3000ドル(30万円)に近づいていること、さらに周辺国に比べて競争環境が緩やかで、未開拓市場が眠っている点が大きな魅力だ。この潜在需要を狙い、インドネシアのミニスーパー最大手アルファマートが14年にフィリピンに新規参入を表明するなど、外資系企業による新規参入の増加が予想される。

また、生産拠点としても、従前から言われてきた中長期的な労働供給力の高さ、豊富な英語人材に加え、最低賃金引き上げや人材不足のリスクが低い点が注目される。さらには、近年、中国との政治的対立により、中国・ベトナム間のサプライチェーンの見直し機運が高まる中、フィリピンをベトナムの代替地として位置づける余地も出てきた。そうなれば、中国間貿易のみならず、タイやインドネシア向けの部品・製品の輸出拠点として機能することになり、ASEAN域内での存在感拡大につながる。

ただ、フィリピンではアヤラ、ロペス、ゴコンウェイ、SMグループに代表される財閥が経済に強い影響力を持っている。そのため参入に際しては財閥の動向を横目で捉えつつ、単独展開もしくは協力関係構築などの参入オプションを検討することが重要となる。

従来はスペイン系財閥が通信、エネルギーなどインフラ分野を、中華系財閥が小売りなど商業分野を手がけるといったすみ分けがなされていたが、近年はスペイン系財閥のアヤラ、中華系財閥のSMグループが商業施設事業で隣接するなど、徐々に有望市場を巡る陣取り合戦が激化しつつある。

これを踏まえると、まずは財閥との協力関係を前提に当地で橋頭堡(ほ)を築きつつ、事業基盤を固めることを想定する必要があるだろう。

(『日刊工業新聞』新興国マーケット③ 2014 年 6 月 19 日付より転載)

— ご利用に際して —

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡下さい。